

第4回 SEA 名古屋・sigedu Joint Forum レポート

2009.9.9 米島 博司

1. はじめに

当フォーラムでは、毎年、グローバル化しつつあるソフトウェア開発の生産性向上や、それを支える技術者の育成をテーマに議論を重ねてきております。

今回のフォーラムでは、設計・開発のより高度なレベルでの開発方法論に焦点をおき、オブジェクト指向プログラミングが内包する問題の解決糸口としてのアスペクト指向プログラミングについて、南山大学の野呂先生をお招きしてご講演をお願いしました。

また、ソフトウェア開発の現場からの事例としてオムロンソフトウェアの牧野氏からソフトウェア開発者の人材の品質保証といった革新的なアプローチの紹介がありました。

続いて NEC ソフトの篠崎氏からは、日頃実践されているソフトウェア教育の実践事例の紹介がありました。

次に地元の名古屋支部メンバーである石川氏からは、ソフトウェア保守について、従来の消極的な立場から、積極的に「進化」としてとらえるというお話がありました。

最後に SEA 事務局長の岸田氏から 7 月に開催した SEA 上海フォーラムの報告をしていただきました。

<野呂先生による概要主旨>

組込みソフトウェアの PLSE 開発を支援するためのアーキテクチャスタイル E-AoSAS++とそれに基づく環境について述べる。E-AoSAS++はソフトウェアを並行に動作する状態遷移機械の集合としてモデル化し、組込みソフトウェアに必ず存在する、実時間処理、フォールトトレラント処理などの横断コンサーンをモデル化しアーキテクチャとして定義するためのスタイルである。E-AoSAS++によって記述したアーキテクチャに基づいて PLSE 開発を行う際の支援ツールの集合を環境として定義し、設計実現した。事例への適用も含めて、説明する。

■ 日時 2009年8月21日(金) 10:00-16:30

■ 場所: 文化のみち二葉館(名古屋市旧川上貞奴邸) 集会室
名古屋市東区榎木町3丁目23番地」

http://www.futabakan.city.nagoya.jp/how_to_use.html#accessMap



1. プログラム概略

8月21日(金)

10:00 受付

10:20 オープニング

10:30 基調講演

「アスペクト指向ソフトウェアアーキテクチャスタイルE-AoSAS++と
それに基づくPLSE環境」

野呂 昌満 (南山大学)

(途中休憩含む。最後に15分程度の質疑応答)

12:15 (昼食)

13:15 話題提供「人材の“品質保証”」

牧野 憲一(オムロンソフトウェア(株))

14:00 話題提供「高品質なソフトウェアを確保するためのレビュー技法教育の取り組み」

篠崎 直二郎(NECソフト(株))

14:25 話題提供「ソフトウェア進化を促進するための技術基盤」

石川 雅彦((株)SRA)

14:50 (休憩)

15:00 話題提供「上海国際フォーラムレポート」

岸田 孝一((株)SRA先端技術研究所)

15:45 全体討論

16:20 クロージング

16:30 (解散)

4. 発表者および参加者感想.

■ 篠崎さん(発表者:NECソフト)

発表所感:

6月の事例研究会では、主にソフトウェアレビューの演習事例を紹介しました。事例研究会に参加していない人がほとんどでしたので、冒頭で簡単にサマリを紹介しました。

今回は、レビュー演習で取り上げた簡単なロジックを、テストの観点でケース分けする問題について解説しました。私自身は気に入っている内容ですが、短時間の説明でどこまで理解していただけたかは疑問です。

参加者所感:

定員30名の素晴らしい歴史的にも貴重な会場(貞奴邸)ということで期待に胸を膨らませて参加しました。確かに趣があり落ち着いた由緒ある建築物で素晴らしいところでした。しかし、参加者14名でほとんど会場を埋め尽くし手狭でした。もし、定員の30名が押し寄せていたら全員立ち見でのforumとなっていたでしょう。

石川実行委員長の後日談ですが、下見をしたときに利用者がいたため会場自体は見る事ができなかった。そのため事務局およびパンフレットに記載されている定員を素直に信じたということのようです。それにしても、あのスペースにどうすれば30名が入るのでしょうか。疑問。

名古屋の人たちは、多忙な中、時間を工面して積極的に参加されていました。野呂先生がエレキギター持参で基調講演をされたので、てっきり生演奏が聞けるかと思ったのですが、演奏はありませんでした。ケチ。

■ 牧野さん(発表者:オムロンソフト)

名古屋でのジョイントには初めて参加させていただきました。SEA名古屋の皆さん、ジョイントでは大変お世話になりました。そして、楽しい懇親会に感謝いたします。

当日、会場に到着するとまだ会場が開いていません。そこで止む無く少し歩いて大型喫茶店を見つけ、時間調整をすることにしました。名古屋の喫茶店での”モーニングザービス”は有名ですが、確かに豪華でした。あっ、私は注文しませんでした。会場に戻って、入口から入ったら、”会議室の入口はあちらです。”と言われました。拝観できるようになっていて、会議室は別なんですね。とてもごちんまりとした会議室でしたが、参加人数とはばっちりマッチしていましたね。喉が痛かったのですが、大きな声を出さずに済みました。

野呂先生のご発表中に当社の社名が何度も出てビックリしました。当社のメンバが先生のご研究と一時期とは言え関わっていたとは知りませんでした。世間は広くて狭いものです。

昼食は近くの和風定食です。岸田さんと篠崎さんの三人で頂きました。お天気がとても怪しいです。ポツリポツリときていますが、大きな変化はありません。

午後一番は私の発表でした。午前の格調の高さから一転して、現場での人材育成により”要員を品質保証しましょう”というテーマです。スライドには有りませんが、現物の一部を見ていただけなので、言いたいことのイメージはつかんでいただけたかと思っています。

篠崎さんの発表はSIGEDU常連なら数度は聞いたネタかもしれませんが、名古屋地区できっと今後広まることでしょう。人間の心理をついたナイスネタです。

SEA名古屋からは石川さんが”メンテナンス”をテーマに発表してくださいました。技術的な理論や世間動向をうまく説明してくださいましたが、どなたかの指摘にもありましたが、石川さんの持論を次回は聞きたいです。

岸田さんからは先日、上海で開催した国際フォーラムから、岸田さんの視点で捉えた”気になる話題”を聞かせて頂きました。私も参加しただけに早くも懐かしく聞かせて頂きましたし、今後の運営に際しての参考になる情報をいただけ嬉しかったです。

懇親会には全員参画していただいて、また、中野先生も懇親会から参加してください、とても楽しい時間を過ごす事ができました。参加率の高さに驚きです。事前に”鳥が嫌い！”とわがままを言わせて頂き済みませんでした。二次会も開催されたようですが、私は篠崎さんと同じ新幹線で帰りました。京都までは一緒に。

これで4年目のSEA名古屋とSIGEDUとのジョイントでしたが、次年度以降も継続して開催できることと、SEA名古屋の活動が益々活発になることを楽しみにしております。またお目にかかれる機会を楽しみにして、徒然なるレポートを終了させていただきます。

米島さん;直前での不参加表明、とても寂しかったです。

■ 石川さん(発表者:SEA名古屋支部/(株)SRA/SERC 研究員)

私は、参加者、発表者、スタッフという3つの立場で所感を述べたいと思います。

1. 参加者として

会場の川上貞奴館ですが、オレンジ色の瓦屋根、内装にステンドグラスが施されたとても感じのよい建物でした。交通ですが、名古屋観光バスに乗れば、名古屋駅から一本で、すぐ近くの停留所で降車可能でした。しかし、本数が少ないのが残念でした。会場の集会所は、本館の玄関とは反対側の引き違いの木戸から入るようになっていました。入り口のすぐ右側が会場、もともと台所だったという場所でした。机が取り払われていすだけの場所に20名前後の人が座り、発表をマイクなしで聞くことができました。

午前中の基調講演、野呂先生の AOSS は組み込み向けアスペクト指向アーキテクチャスタイルの話、理論面のみではなく、実際の組み込み開発に適用された実績が説得力を持っていました。

オムロンの牧野さんの発表は品質保証のお話。自動改札の話も少しあり興味深く聞くことができました。

篠崎さんのお話は、教育をご担当する立場としての、参加型の発表でした。桃太郎の冒頭部分の語りをベースにした演習を参加者全員が実施し、人の思い込みを自覚させてくださいました。

岸田さんの話題提供は、7月に開催された上海フォーラムの報告でした。印象に残った話題をいくつか紹介されましたが、中でも長野大の和田先生が紹介された“Unplugged Computer Science”は興味深く聞きました。また、ご本人が発表された教育の動機づけに関するARCSモデルも印象に残りました。

2. 発表者として

私の発表「ソフトウェア進化を促進するための技術基盤」は、昨年秋到北京で開催された国際会議IGSM2008 中から、Frontiers of Software Maintenance (FoSM) の内容紹介を行ないました。FoSMは、ソフトウェア保守の分野における最新動向を紹介するTutorial です。「ソフトウェア保守」は、最近では「ソフトウェア進化」として捉えられており、「ソフトウェア進化」の名の下に様々なソフトウェア最新技術が結集し、投入されつつあります。現実稼働中のソフトウェアシステムを進化させるための状況は、決して理想的とは言えません。

そのような状況の中で、ソフトウェアシステムを把握、理解し、進化させていくための試み、努力が研究者、実務者によって行なわれています。私の発表ではそれらの試みを「進化」をキーワードにして紹介しました。今回掲載される発表資料によって、以上の発表要旨を感じ取って下されば、と思います。

3. スタッフとして

今回のジョイントフォーラムも回数を重ねて恒例となりつつあります。SIGEDUと名古屋支部の間の協力関係や、役割分担は主にメールベース、事前調整を重ねることにより、双方のメインの仕事の都合も考慮して進められていきます。重要なのは、役割を事前に明確にしておくことですが、一方で、全ての役割に対する担当者を厳格に固定化しないように配慮することも必要と思います。

いつもながら、当日の運営については様々な不測事態、機転が必要な事がありました。しかし基調講演された野呂先生（野呂先生は名古屋支部の世話人でもあるため、スタッフサイドでもあります）はじめ、遠方から参加された方々の協力によって無事に終了させることができました。参加者、講演者、スタッフという一応の枠組みがありながら、その枠組みを越えて協力して下さった方がたにお礼申し上げます。。

■ 玉木さん(参加者:SRA)

私は開発現場のマネージメントを担当しており、生産性や品質については常に頭を悩ませております。今回は、興味深いテーマが多く、名古屋で行われるという事で、現場で困っている事に何らかヒントになればと思い参加しました。

どのテーマも考え方や方法論など非常に勉強になりました。自分の勉強や努力の不足を痛感しました。生産性向上と品質確保という相反する事を、少しでも近付けてバランス良く作業していくために活かしたいと思います。

ただ、もう少し実際の現場にどのように適用し、どのような効果が上がっているかなどが知りたかったです。

懇親会でもテーマ以外の情報交換が出来て、貴重で楽しい時間でした。是非、また名古屋で開催して頂きたいと思います。

■ 江尻さん(参加者:(株)中電シーティーアイ)

今回、開催地が地元名古屋であること、メンテナンス研究会(SERC)の会合がこのフォーラムに絡めて計画されたこと、テーマが「高品質高機能なソフトウェア開発の戦略」であったことを併せ参加させていただきました。

技術的な面で基調講演「アスペクト指向のソフトウェアアーキテクチャスタイル E-AoSAS++」は、私自身の実務とはかけ離れた内容ではありませんでしたが、大変新鮮な内容でもあり、開発手法の一環・一例として楽しく聞かせていただきました。

人材育成、品質面では、プロジェクトの参加資格を得るための試験制度に大いにひかれました。最低限必要な知識を得た者だけを参加させるのは、ある面暗黙の了解であり、当たり前の事項でもあるため、試すことはしていないのが実情と思っていました。即時に同調、導入ということではありませんが、とても興味をもった講演でした。

教育・人材育成・品質維持、向上などを目的とした活動は、大いに注目されるものと思います。ユニークな考え方、手法等、大いに参考になったフォーラムでした。お話しいただいた皆様に感謝いたします。

■ 匿名希望さん(某社)

[全体]

SEA関連イベントの参加は実に久々だったのですが、社外の方々とざっくばらんに議論できるのはやはりいいですね。議論するにもちょうどよい人数だったと思います。スケジュールが合えば今後も参加したいと思います...努力します。

[野呂先生]

現在、組込みソフト(かなり大規模)のプロセス改善支援に取り組んでおり、E-AoSAS++には興味深いものがあるのですが、我々の現実と照らし合わせると、まだまだ道のりは険しいな、というところですね。まずは、しっかり状態遷移を書いてもらうようにすること。その次に、部分的な試行(チャレンジ)、といった感じでしょうか。

[牧野さん]

「人材品質保証」。これも魅力を感じます。弊社も、最低限知っておくべきものについては徹底してはいるのですが、さすがにテストまでは手が出ません。企業文化もあるのでしょうか。

[篠崎さん]

上記の組込みソフトの支援では、レビューの強化も併せて行っています。やはり、自らやらないとダメだという認識はあり、座学+演習+実践 という取り組みを始めたばかりです。今後こうした取り組みの中でのノウハウなど共有できればと思います。

[石川さん]

ソフトウェアメンテナンスのカンファレンスは恥ずかしながらノーチェックだったので、興味深く聞かせていただきました。リクエストの多い、「持論」を期待しています。 :-)

[岸田さん]

中国のソフトウェア事情がよくわかりました。日本の教育はどうなるのでしょうかね。他にも、関連する色々なジャンルの話題がでてきて、そちらも大変に面白かったです。日蝕は残念でした。

■ 茅中さん(ブラザー工業)

午前中の野呂先生の話は知らないキーワードが次から次へと出てきて、正直ついていけなかったところも多かったのです。帰ってからメモしたキーワードで検索をかけてようやく概念くらいは理解して、こんなことがもう考えられているのか、と、とても刺激を受けました。

午後の教育に関するセッションではレビューの教育の話がとても印象的でした。ロジックが正しい、間違っているだけではなくいろいろな切り口があるというお話がとても印象的でした。

5. あとがき(米島)

実行委員長として毎年恒例の猛暑の中の名古屋ジョイントを楽しみにしていた矢先、急用ができてしまい、参加できなくなって大変残念な思いをしました。東京や京都から参加された方を始め、再開を楽しみにしていただいていた皆さんには申し訳ないことをしました。昼間のセッションも勿論、夜のアイリッシュパブも来年の楽しみに持ち越します。

繰り返し回を重ねることも重要なことだと日頃思っていますが、来年はまた元気に集いたいと期待しております。地元で支援してくださった石川さん、角谷さん、有難うございました。